

■ 大学入学共通テストが難化！早めのスタートが肝心です！

去る1月15日(土)、16日(日)に大学入学共通テストが行われました。本校の3年生も島根県立大学浜田キャンパスの試験場で114名が受験しました(受験率95%)。報道されている通り、今年は全体的に難化して、全国平均では900点満点で文系型は508点(対前年-44点)、理系型では513点(対前年-59点)となりました。特に理系科目の難化が目立ち、平均点が大幅に下がった教科は、数学ⅠAの38点!(対前年-20点)、数学ⅡBの43点(対前年-17点)、生物の49点(対前年-24点)、化学の48点(対前年-10点)などでした(平均点はいずれもデータネット集計による)。もともと、共通テストは平均点が5割となるように作成されていると言われており、昨年よりも難化するだろうとは予想していましたが、ここまで平均点がダウンしたことは衝撃的です。

これから受験に向かう1、2年生の皆さんには、共通テストの傾向を早めに知り、共通テストで求められている力を理解し、これからの勉強に臨んで欲しいと思います。共通テストは確かな学力がないと乗り越えられない、ということが今年の結果から窺えます。特に日々の授業を大切にしておいて考える力を養い、自分の進路実現のために早めから動き出して欲しいと思います。

以下はベネッセが分析した各教科の出題の特徴とこれからの学習ポイントです。参考にして下さい。



英語リーディング —昨年同様、様々な場面や状況に応じた題材が取り上げられた—

題材は昨年同様、日常的な文章や説明文など様々なものが扱われた。設問では記述内容の順序を問うものや、プレゼンテーションを完成させるものなどが出題され、昨年同様に多面的に情報を処理することが求められた。読解量はやや増加したものの、難易は昨年並。

■ 内容や場面が工夫された素材が出題され、多面的なリーディング能力が問われている。「複数の情報を処理する力」や「文章の論理展開を把握する力」などを意識して伸ばしていこう。

■ 昨年から読解する英文量が増加しているため、日頃から多種多様な英文素材を短時間で読解する練習をしていこう。さらに、複数の英文と図表の内容を組み合わせて考えるといった情報処理をすばやく行うような学習をしておこう。

英語リスニング —イラスト並べ替え問題が出題されたが、その他の大きな変更なし—

昨年に続き、音声情報とイラストやグラフなどの視覚情報を組み合わせて答える問題が出題された。場面に応じた聞き取りを要する実践的な英語力が問われた。長めの講義全体を理解する必要がある問題や、放送文からの言い換えに注意が必要な問題もみられたが、全体的に取り組みやすく、昨年よりやや易化。

■ 音声情報の表面的な理解にとどまらず、具体的な状況やイメージを頭の中で思い浮かべられるかどうかポイントであった。話し手の意図や場面を意識しながら、音声を聞く練習を積もう。

■ 今後も、音声情報と図表などの視覚情報をもとに解答したり、複数の情報を整理・判断したりするなど、多面的に情報を処理することが求められると予想される。重要な情報を逃さずに聞き取ることができるよう、メモを活用して短時間で情報を整理する練習を積むとよいだろう。

数学Ⅰ・A —第1問で三角比の表、第2問でグラフ表示ソフトの問題が出題—

第1問〔2〕は現実事象において、三角比の表を利用する問題、第2問〔1〕は対話の場面やグラフ表示ソフトを用いるなど、学習場面を想定した問題であった。選択肢の問題は8～10問（解答数12～16）で、昨年より3～4ページ少なかった。導入部分から解法の方針が立てにくい問題が多く、昨年より難化。

■現実事象の問題や、対話形式の問題は、従来のセンター試験に比べると1題あたりの問題文が長い傾向がある。問題文をじっくり読んでいると時間切れになってしまう可能性があるため、必要な情報を素早く取捨選択することなどを意識した演習を積んでおこう。

■問題の分量が多いため、まず最初は70分以上かかってもよいので、自力で解ききれるように過去の共通テストの解き直しを行おう。その後、少しずつ時間内に終わられるよう、時間配分や効率的な計算を意識した演習を積もう。

数学Ⅱ・B —「図形と方程式」や現実事象を扱う問題（数列）が出題された—

第1問〔1〕において「図形と方程式」の出題があった。第4問「数列」では、現実事象を扱った対話文を含む問題が、第5問「ベクトル」では、対話文をもとに考察を進めていく平面ベクトルの問題が出題された。全体を通して幅広い知識の活用が求められ、難易は昨年より難化。

■現実事象を題材とした第4問のように、今後も文章量が多い問題が出題される可能性がある。対話文をヒントにするのはもちろん、「～より」「～に注意する」などの語句にも着目し、誘導に従いながら解き進めるようにしよう。

■見慣れない問題を解く際は、値を代入した結果の推測や、条件の読み替えなど、自分の知っている知識との結びつけが重要になる。焦らずに、どの知識を用いればよいか、どこに着目すれば選択肢を消去できるかなどを考え、見通しを立てて解き進めるようにしよう。

国語 —複数テキストを比較・関連付ける応用的思考力を問う設問が出題—

本文の分量は、ほぼ昨年並。設問数は変更がなく、解答数は減少。第1問では生徒の作成したメモを用いて2つの文章を比較・統合する出題が、第3問では同じ場面を描いた別ジャンルの文章を比較する出題がなされた。昨年以上に、複数の文章や資料を関連付ける力が求められ、やや難化。

■生徒の学習過程を想定した設問や、複数テキストを比較・統合しながら応用的思考力を問う設問が出題される。本文の構成や展開を的確にとらえ、論旨や内容を正確に読み取る力に加えて、複数の文章や資料の共通点や相違点をとらえたり、抽象化してまとめたりする力が求められる。文章の表面的な読解にとどまらず、その根底にあるテーマや、書かれた背景にまで着目して、深く考える力を身につけよう。

世界史B —多様な資料から、歴史上の出来事や根拠・仮説を考察する力が求められた—

大問数や解答数は変更なし。異なる歴史の見方とその根拠、歴史上の出来事とその要因として推測される仮説を結びつける問題など、資料の性格や統計の分析を通して、探究的に考察する姿勢が求められた。問われている知識は基本的な内容で、難易は昨年よりやや易化。

■多様な資料を読み取る練習に加え、読み取った情報を吟味・分析する力を養おう。

■資料と知識を組み合わせる問題が出題されるので、基本的な知識の習得にも力を入れて学習しよう。

日本史B —姓と苗字の違いなど、多様な資料を活用し考察する力が求められた—

大問数、解答数に変更はなかった。多くの文章資料に加え、略系図・年表・地図のほか、鉄道の時刻表などのさまざまな資料が用いられ、所与の資料を読み取り解釈する力が求められた。設問の意図を把握するのに時間を要する問題が散見され、難易は昨年より難化した。

■多様な多くの史資料を読解する力が求められる。教科書や資料集などを活用して、さまざまな史資料に慣れておきたい。史資料から読み取れることを自分でまとめ、教科書本文の内容との関連を確認しよう。

■歴史を考察する多面的・多角的な視点が求められる。同じ出来事でも、立場や視点を変わるとどのような評価ができるのか、学習内容と関連づけて考えよう。



地理B —昨年と同様に、多様な資料を用い地理的思考力が求められた—

複数の要素を一つの図に表した資料など、多様な図表が用いられた。基礎的な知識・理解をもとに限られた時間の中で正確に図表を読解する力と地理的な見方・考え方が求められた。資料の読み取りに時間を要する問題がみられたものの、求められた知識は標準的で、難易は昨年並。

■複数の資料を組み合わせて深い思考力を問う問題が出題される。複数の資料から情報を読み取ってそれぞれを関連付けたり、資料の数値の変化や差異がみられる点に着目して原理原則や既習の知識をもとに背景を考察したりする演習を重ねよう。

■地域のさまざまな事象を他の事象と結びつけたり、異なる地域の対照的または類似的な特色を比較しながら、自然的・社会的条件を踏まえて、その地域がどのような地域であるか考察したりしよう。さまざまな地域について「どのような地域なのか、なぜそうなるのか」を意識して理解を深めよう。

現代社会 —多様な資料を読み解く力が求められ具体的な事例を考察する問題が出題—

「現代社会」の幅広い範囲からバランスよく出題された。全体の文章量は昨年並で、資料を活用したさまざまな出題形式で読解力、思考力が問われた。全体としては取り組みやすい出題が多く、学習した内容が確実に身に付いていれば解答できた。難易は昨年よりやや易化。

■多様な資料を読解して解釈する力や、複数の資料を関連付けて考察する力が要求される。普段から資料集などをよく読んでおきたい。また、資料の読み取りだけでなく、資料をどのように活用していくかということも考えるようにしよう。

■知識をもとに考察する問題に対応するために、用語の暗記だけでなく、用語の内容まで正しく理解しておくことが重要である。また、事象同士の横のつながりを意識しながらの学習や、異なる分野の事象がどのように影響し合っているかを関連付けながら学習を進めよう。

化学基礎 —エタノール水溶液の蒸留を題材に実験考察問題が出題された—

問題文の長い設問が目立ち、読解力と思考力を要した。第1問では、昨年より組合せ問題は減少し、文章選択問題が増加した。第2問では、エタノール水溶液の蒸留に伴う質量パーセント濃度の変化について問われ、実験操作の内容を理解し、見慣れないグラフを読み取る力が要求された。難易は昨年より易化。

■教科書で扱われている知識事項を細部までしっかりと身につけることが有効である。教科書の本文中にある用語だけでなく、図・グラフまで丁寧に理解しておこう。

■実験の操作や、結果からの考察などについて問われることが今後も予想される。まずは教科書で扱われている実験について、原理や操作の意味、結果から導かれる事柄などを、確実におさえよう。

生物基礎 —知識をふまえた思考や計算など、多様な科学的思考が求められた—

昨年と同様、論理的に考える力、グラフを読む力、計算力など、多様な科学的思考が問われた。知識のみではなく、知識を活用して判断する必要のある設問が多く出題された。昨年と比べ、解答数・設問数ともに同程度であったが、選択肢の数が多い設問が増え、昨年より難化した。

■教科書に掲載されている重要用語は、単に覚えるだけでなく、意味を理解して、さまざまな場面で活用できるようにしておこう。

■日ごろから生物に関連した資料や文献などを読み、教科書で学んだこととの関連を考える習慣をつけよう。

物理 —仮説検証のための実験の条件や、仮説の誤りの根拠を問う目新しい問題が出題された—

実験に必要な条件や、与えられたグラフをもとに仮説の誤りの根拠を問う点が目新しい。記録タイマーを用いた力学台車の運動の実験を行い、仮説を検証する問題が出題された。力学、電磁気、原子分野からの出題が中心で、熱力学と波動の分野は小問集合でのみ出題された。難易は昨年よりやや易化。

■図やグラフから必要な情報を読み取って現象を考察する問題は、今後も出題が予想される。日ごろから、図やグラフから読み取れる情報をもとに、比較・推測・判断する経験を積んでおこう。

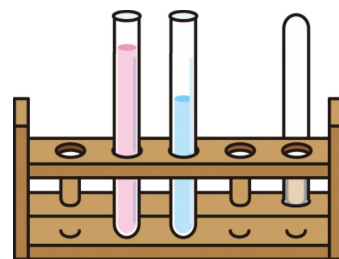
■目新しい題材や目新しい設定の問題にも対応できるように、日常の場面でみられる現象と物理法則がどのように関連しているのか考えることを、普段から意識しよう。

化学 —思考力や計算力を要する出題が多く、オゾン分解を題材にした問題が目新しい—

昨年同様5大問構成で、実験を題材にした問題が多く、特にアルケンのオゾン分解を題材にした問題が目新しい。問題文や図・グラフの読解、複数のステップで考えるなど、思考力や計算力を要する問題が多数出題された。数値そのものをマークする形式の問題が2問出題された。難易は昨年よりやや難化。

■教科書を中心に基本的な内容をまんべんなく理解しておくことが大切である。学習した内容は、確実に定着させておこう。

■教科書に掲載されている実験や探究活動について、その意図や手法をしっかりと理解しておきたい。さらに、得られたデータから、作図や計算をする演習も積んでおこう。



生物 —処理すべき情報が昨年以上に増え、整理・統合して考える力が求められた—

全大問必答で、昨年と同様に複数の大問で分野融合問題が出題されたが、大問間での配点のばらつきは、昨年ほど大きくはなかった。知識を活用して正解を導く問題や、図や問題文で与えられた複数の情報を解釈する問題が多く出題されたため、難易は昨年より難化した。

■教科書に記載されている知識を覚えるだけでなく、分野どうしのつながりや、身の回りの現象との関連を考える習慣を身につけよう。

■問題文、設問文、複数の図表・グラフなど、多くの情報から必要な情報を読み取る練習をしておこう。

～2年生へのお知らせ～

2年学年会では、第4回進路希望調査をGoogleフォームで行います。
進路について保護者の方と相談し、以下の期間に入力してください。
入力期間：2月11日（金）～2月17日（木）